

令和 2 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18174

研究課題名(和文)文化シオニズムをめぐる大西洋横断的な政治思想：多文化主義の知的源流

研究課題名(英文) Exploring Intellectual Origins of Multiculturalism: Cultural Zionism Across the Atlantic

研究代表者

馬路 智仁 (BAJI, Tomohito)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80779257

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀末から20世紀前半の時期を対象とする大西洋横断的な政治思想史叙述への貢献を念頭に、文化シオニズムを軸とした初期多文化主義論をめぐるトランスアトランティックな思想交流・知的共鳴関係の内実を明らかにすることを目的として遂行された。

この目的の下で本研究遂行期間中、英文、和文および韓国語訳論文、併せて計5本の論文を学術誌に公開(内4本が査読付き)し、また本研究の内容を含む英文単著書籍の出版をPalgrave Macmillan社と契約した。またそれら5本の論文のうち、二つの論文についてそれぞれ学会賞を受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の重要な学術的意義は、一国単位の枠を超えた、大西洋を舞台とするトランスアトランティックな動態的政治思想史叙述を行った点にある。特にこれまで未検討な、文化シオニズムをめぐる大西洋横断的な思想の結びつきを解明した点に独創性を有する。これは、シオニズム研究自体に対しても重要な貢献を為すものとなった。

加えて社会的意義と絡めて言えば、本研究が明らかにしたホラス・カレンやアルフレッド・ジマーン、ランドルフ・ボーンらのおよび世界全体を射程とする多文化主義構想は、現代のグローバル化世界における大規模移民による摩擦や文化対立をいかに調停するかを考察する一つの歴史的布石となると考えられる。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research was to demonstrate distinct transatlantic intellectual exchange and resonance about the late 19th- and early 20th-century theories of multiculturalism. It shed particular light on the role of cultural Zionism in the development of such cross-atlantic multicultural theories.

During the period of this research, I published five articles in English, Japanese, and Korean languages(four of which were peer-reviewed) in academic journals, and contracted with Palgrave Macmillan for the publication of an English monograph that included the contents of this research. In addition, two of these five papers were awarded the prizes from relevant academic associations in Japan.

研究分野：政治思想史

キーワード：トランスアトランティック思想史 グローバル思想史 初期多文化主義 文化シオニズム アルフレッド・ジマーン ホラス・カレン ランドルフ・ボーン

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の目的は、19世紀末から20世紀初めの時期を対象とする大西洋横断的な政治思想史叙述への貢献を念頭に、文化シオニズム(cultural Zionism)をめぐるトランスアトランティックな思想交流・知的共鳴関係の内実を明らかにすることにあった。この研究の背景には主に3つの学術的意図があった。1つ目に、20世紀への世紀転換期を対象とした大西洋横断的な思想史研究は英米圏において一定の蓄積があるものの、当該時期において重要な影響力を有したユダヤ系知識人、とりわけ文化シオニストたちの大西洋横断的な密接な思想交流・知的共鳴に光が当てられたことは、これまでほとんど無かったというものである。

(2) 2つ目に、文化シオニズムという思想潮流がシオニズム研究それ自体においても長らく周縁化されてきたというものである。これは、伝統的なユダヤ文化の復興・革新を通して、世界中のユダヤ人離散民を精神的に糾合するための統一的ナショナル・アイデンティティの構築を目指す潮流を意味するものであり、主権的に独立したイスラエル国家の建設を(少なくとも即時的には)求めないという点を特徴としているため、ユダヤ人独立国家建設の理念がシオニズムの大勢を占めていく中、時代錯誤的なものとして半ば忘却されてきた。本研究は、そうした学術的ギャップに光を当て、その思想潮流が大西洋兩岸の国々(イギリス・アメリカ)における知識人に与えた影響を明らかにすることを意図したものであった。

(3) 3つ目に、本研究の遂行者はそれまで、20世紀前半に発達したイギリス自由国際主義およびその思潮における代表的理論家であるユダヤ系知識人アルフレッド・ジマーンの思想を研究してきたが、その過程で次の二つの点において克服すべき課題を抱えていた。1.文化シオニズムの旗手アハド・ハアムの思想体系における具体的にいかなる理論内容が、ジマーンの帝国・世界秩序構想を特徴づけることになったのか。2.ジマーンの秩序構想は、アハド・ハアムやアメリカにおける知識人、特にホラス・カレンやランドルフ・ボーンとの文化多元主義といかなる関係を切り結んでいたか。

以上の三つの課題に取り組むため、本研究は文化シオニズムや文化多元主義、初期多文化主義論をめぐるトランスアトランティックな政治思想史研究を実行した。

2. 研究の目的

(1) アルフレッド・ジマーン、ホラス・カレンおよびランドルフ・ボーンとの関連においてアハド・ハアムのシオニズム論体系を精査し、具体的にいかなる思想・理論が多文化主義構想に影響を与えたのか明らかにする。それと並行して、ウクライナにおけるアハド・ハアムの議論がジマーンやカレン、ボーンにいたイギリス、アメリカにいかなる形で持ち込まれ、彼らに受容されるに至ったか、そのトランスナショナルな知の流れを追跡する。

(2) カレンやボーン、ジマーンの間での知的交流の中身を、とりわけ彼らにおける民族、文化、人種、反人種主義、ナショナル・アイデンティティといった観念に着目しつつ明らかにする。またそうした知的交流が、彼ら各々の思想発展に及ぼした影響を検証する。

(3) (1)・(2)の成果を統合し、アハド・ハアムの文化シオニズム論を基礎としたジマーン、カレン、ボーンとの知的共鳴関係を明確に論証する。すなわち、仮説として、アハド・ハアムの思想を背景に、彼らはアングロ・サクソン主義へ対抗する互いに相似的な多民族・多文化共生論(カレンやボーンはアメリカ市民社会を、ジマーンはイギリス帝国や世界全体を念頭に)組み立てたと想定されるが、これを、20世紀後半以降台頭する多文化主義の政治理論の思想的起源として提起する。

3. 研究の方法

(1) 本研究は政治思想史の研究であり、具体的な方法としては、対象思想家が執筆した本・論文・書簡を取り上げ綿密な分析・解釈を行うものである。この作業には、対象思想家がいかなる政治的・文化的・社会的コンテクストにおいて著作を執筆したかを押さえるため、その思想家に関する伝記的研究や政治・文化史、国際関係史といった他の分野の先端的な研究文献を適宜渉猟・参照することも含まれる。

(2) また、必要な場合アーカイブ調査を通して、書簡や対象思想家の思想を明確にする上で検討すべき未公開原稿(論文に比類する纏まった形の講演原稿など)の収集を行い、これら进行分析する。

(3) 研究作業中においても得られた暫定的成果については広く公に問い、専門分野および他分野の研究者からコメント、フィードバックを得て随時改良する。したがって研究期間を通してコ

インスタントな論文投稿や学会報告を行う。

4. 研究成果

具体的な公刊物に即して整理すると、本研究の成果は以下の4つに大別することができる。

(1) 本研究が対象とする思想家の一人であるアルフレッド・ジマーンの秩序構想について、本研究の土台を固める上でもより深化させた分析を行い、以下の成果を公刊した。

馬路智仁「大ブリテン構想と古典古代解釈 E.A. フリーマンとアルフレッド・ジマーンのギリシャ愛好主義」『政治思想研究』第17号、pp. 327-359 (2017年)【政治思想学会研究奨励賞】

これは、ジマーンが古代ギリシャにおける民主政や植民・移民実践をプロトタイプとして、どのようにイギリス帝国の緊密な統合(コモンウェルス)を構想していたかを明らかにするものである。特にジマーンの著書『ギリシャの共和国』(*The Greek Commonwealth*, 1911年)において描写されたペリクレス期アテネの愛国的な共和主義シティズンシップが、イギリスとその移住植民地の公民が発揮すべき帝国シティズンシップの範型として機能したことを明らかにした。

(2) (1)を部分的に土台として、ジマーン(イギリス)とホラス・カレン(アメリカ)の間のトランスアトランティックな知的交流・共鳴関係を明らかにした。また、その大西洋横断的關係の中で文化シオニズムの理論的旗手アハド・ハアム(ウクライナ)の思想がどのような役割を果たしたかを明確にした。この成果に属する具体的刊行物としては以下が挙げられる。

馬路智仁「大西洋横断的な共鳴 アルフレッド・ジマーンとホラス・カレンの多文化共生主義」『社会思想史研究』第41号、pp. 74-92 (2017年)【社会思想史学会研究奨励賞】

この成果物ではより具体的に次の諸点を論証した。1. ジマーンとカレンはともに、アハド・ハアムが提唱する文化シオニズムの影響下に、類似の多文化「共生」論を組み立てた。2. 彼ら二人の大西洋横断的な知的交流が、各々におけるそうした理論の構築、定式化を促進した。3. ジマーンとカレンは各自の多文化共生論を、それぞれイギリス帝国(ブリティッシュ・コモンウェルス)、アメリカ市民社会の再組織化の理念として提示した。

(3) (2)の成果を基に、本研究が対象とするもう一人の思想家であるランドルフ・ボーン(韓日)の分析を進め、ボーンを含めたより包括的なトランスアトランティック思想を、第15回日韓(韓日)政治思想学会(於ソウル大学、2019年7月)に報告した。この報告論文は、その後改訂し、韓国政治思想学会の学会誌に韓国語訳で掲載されることとなった(2020年度中に刊行予定)。

馬路智仁「20世紀初期、越境する多元主義 跨・大洋的思想史の模索(20)」韓国政治思想学会編『政治思想研究』(2020年度中に刊行)

ここでは本研究の成果をさらにグローバル思想史(global intellectual history)の枠組みの中に入れ、時空間の縮小、および国境を越える移民・植民の顕著な加速を背景に、様々な民族文化間の共存を目指すエスノナショナルな多元主義(初期多文化主義論)が興隆した点を明確にした。

(4) その他、本研究の成果、および本研究を遂行する過程で実行したアーカイブ調査(オックスフォード大学ボードリアン図書館などにおいて)に基づく派生的成果物として、以下の諸論文を編著本、また英文査読誌に公刊した。

馬路智仁「コモンウェルスという神話 植民・植民地主義、大ブリテン構想、ラウンド・テーブル運動をめぐる系譜学」竹内真人編『ブリティッシュ・ワールド 帝国紐帯の諸相』日本経済評論社、第7章(2019年)

Tomohito Baji, "The British Commonwealth as Liberal International Avatar: With the Spines of Burke," *History of European Ideas* (online first view March 2020)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 馬路智仁	4. 巻 42
2. 論文標題 書評「池田有日子『ユダヤ人問題からパレスチナ問題へ アメリカ・シオニスト運動にみるネーションの相克と暴力連鎖の構造』」（法政大学出版局、2017年）」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 144-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 馬路智仁	4. 巻 17
2. 論文標題 大ブリテン構想と古典古代解釈 E.A. フリーマンとアルフレッド・ジマーンのギリシャ愛好主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 327-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 馬路智仁	4. 巻 41
2. 論文標題 大西洋横断的な共鳴 アルフレッド・ジマーンとホラス・カレンの多文化共生主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 74-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 馬路智仁	4. 巻 未定
2. 論文標題 20世紀初期、越境する多元主義 跨・大洋的思想史の模索	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 政治思想研究（韓国政治思想学会編）	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohito Baji	4. 巻 未定
2. 論文標題 The British Commonwealth as Liberal International Avatar: With the Spines of Burke	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 History of European Ideas	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohito Baji	4. 巻 29
2. 論文標題 (書評) A Political Economy of Liberal Imperialism: John Locke, Edmund Burke and E.G. Wakefield	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 相関社会科学	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 馬路智仁
2. 発表標題 跨境・人種 (主義) ・コモンウェルス 第一次大戦期から1920年代のアングロアメリカと日本
3. 学会等名 第198回国際関係論研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 馬路智仁
2. 発表標題 トランスアトランティックな共鳴 アルフレッド・ジマーン (1879-1957) とホラス・カレン (1882-1974) の多文化共生論
3. 学会等名 政治思想学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomohito Baji
2. 発表標題 Conceptualizing a British Commonwealth in Britain, the United States and Japan: Early 20th-Century Multinationalism
3. 学会等名 Symposium 'Rethinking the Commonwealth of Nations' (University of Aberdeen, UK) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 馬路智仁
2. 発表標題 「大ブリテン」の長い影
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 馬路智仁
2. 発表標題 帝国とコスモポリタニズムのはざままで アルフレッド・ジマーンの国際政治思想
3. 学会等名 本国際政治学会関西例会（関西大学法学研究所・「帝国」的实践研究班公開研究会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomohito Baji
2. 発表標題 Pluralism against Racism: A Transoceanic Intellectual History in the Early 20th Century
3. 学会等名 Intellectual History and International Relations: Japan and Anglo-World in the Early 20th Century (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬路智仁
2. 発表標題 20世紀初期、越境する多元主義 跨・大洋的思想史の模索
3. 学会等名 第15回 日韓（韓日）政治思想学会・共同学会議「東アジアと国際政治思想」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomohito Baji
2. 発表標題 Europe, the British Commonwealth and Liberty in Interwar Britain: A Burkean Moment?
3. 学会等名 Britain as a Home of European Liberty in the 19th and 20th centuries (Durham University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 馬路智仁「コモンウェルスという神話 殖民・植民地主義、大ブリテン構想、ラウンド・テーブル運動をめぐる系譜学	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 199-228 (総ページ数342)
3. 書名 竹内真人編『ブリティッシュ・ワールド 帝国紐帯の諸相』	

1. 著者名 Tomohito Baji	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ABC-CLIO	5. 総ページ数 189-192 (総ページ数706)
3. 書名 The British Empire: A Historical Encyclopedia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----